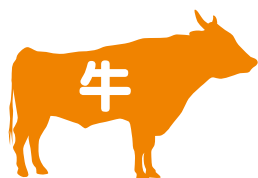


# マルボシール<sup>®</sup>ニュース

No.11



## マイコプラズマは「扁桃」から全身組織への移行が可能です。

マイコプラズマは自身が産生するバイオフィルムによって環境中に長期生存することが報告されており<sup>1)</sup>、環境中のマイコプラズマも感染源のひとつとなります。

*M. bovis*を子牛に経口接種した際の主要な定着部位は「扁桃」であることが報告されています。<sup>2)</sup>



また、マイコプラズマは、感染経路のひとつとして「扁桃から全身循環に入る」ことによって様々な組織に移行します。

### ●マイコプラズマの感染経路一例●

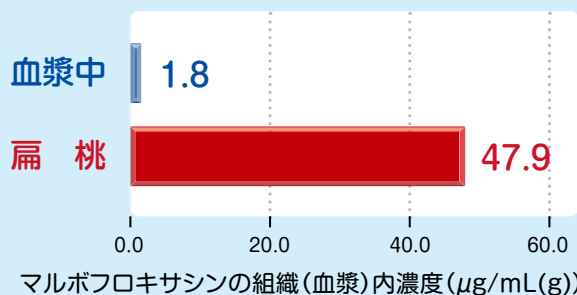
飼槽、水槽中のマイコプラズマ



\*肺、乳房、子宮、関節など



マルボフロキサシン2mg/kg筋肉内投与3時間後における牛扁桃内の分布 (n=2)

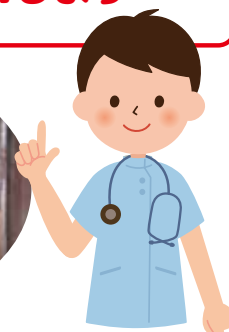


(鹿児島大学 帆保誠二教授との共同研究)

【参考文献】1) McAuliffe L et al., Microbiology 2006

2) Fiona Maunsell et. al., PloS One Volume7 issue9 2012

マルボシール<sup>®</sup>は  
血漿中濃度の27倍が  
扁桃内に分布します



本剤は、第一次選択薬が無効である症例に限り使用すること。本資料は製品の情報等を提供する資料です。使用の際は製品の添付文書をよくお読みください。

meiji 明治アニマルヘルス株式会社

Marboqyl<sup>®</sup>